

第1回 真駒内駅前地区まちづくり検討委員会

議 事 概 要

日 時 : 平成30年11月13日(火) 10:00~11:30

場 所 : 札幌市立大学真駒内キャンパス2階まちの講堂(まこまる)
(南区真駒内幸町2丁目2-2)

| | | |
|-------|---|--------|
| 出席者 | : 北海道中央バス(株)札幌事業部 次長 | 荒井征人 氏 |
| | 北海学園大学工学部 教授 | 岡本浩一 氏 |
| | 札幌ハイヤー協会 常務理事 | 梶 重雄 氏 |
| | 札幌市立大学 講師 | 片山めぐみ氏 |
| | (独)都市再生機構東日本賃貸住宅本部北海道エリア経営センター 管理企画課担当課長 | 木村仁紀 氏 |
| | 北海道建設部住宅局住宅課 主幹 | 奈良華織 氏 |
| | 寿ハイヤー(株)常務取締役 | 三上正志 氏 |
| | (株)じょうてつ自動車事業部自動車部 次長 | 八島弘樹 氏 |
| | (一社)定山溪観光協会 常務理事 事務局長 | 山田秀明 氏 |
| (事務局) | 札幌市まちづくり政策局都市計画部長 | 阿部芳三 |
| | 札幌市まちづくり政策局都市計画部地域計画課調整担当課長 | 大山浩司 |
| | 〃 調整担当係長 | 下國久臣 |
| | 〃 担当職員 | 辻口勇介 |
| | 〃 担当職員 | 中山健介 |

配布資料 : 資料1 会議次第

資料2 座席表

資料3 真駒内駅前まちづくり検討委員会設置要綱

資料4 真駒内駅前地区まちづくり検討委員会委員名簿

資料5 真駒内駅前地区のまちづくり

《議事概要》

【片山委員長】

事務局からの説明を踏まえて、ざっくばらんに議論したいと思います。資料5の最後のスライドに記載されている5つの視点に加えるべきものや不足していると思う情報やデータなど、ご意見や感想でも結構なので、お話を頂ければと思います。

【岡本委員】

議論の大前提として確認しておきたい点として、30、31枚目のスライドに関連し、将来人口推計や、真駒内地域における人口減少について説明があったが、今回の真駒内駅前地区のまちづくりの方向性を

考える中で、真駒内地域の人口減少を止めたいのか、どれくらいの人口に持っていきたいのか、といった人口に関する目標によって、駅前の使い方が変わってくると思うのですが、どうしてお考えなのかお聞かせください。

【事務局】

真駒内地域では人口減少や少子高齢化が進行している状況ですが、札幌市全体でもそういった傾向で推移しています。その中で南区が先行して進んでいる状況ですので、その傾向の急カーブを緩めて、札幌市平均と同等まで回復させていかなければならないものと考えています。

【岡本委員】

札幌市平均同等とは、どのくらいでしょうか。

【事務局】

札幌市全体の人口はこれから微減で推移することが推計されています。南区は人口減少が進んでいるところですので、減少を食い止め、市平均同等まで回復していきたいと思います。ここでは具体的な数字についてお示しできませんが、目標としてはそういったことを想定しています。

【岡本委員】

26枚目のスライドの上にあるグラフのように、他の区と同程度となったら良いということでしょうか。

【事務局】

そういう認識でございます。

【梶委員】

54枚目のスライドにパブリックコメントの結果が記載されていますが、パブリックコメント以外に住民が求めているものを調査したことがあるのか、あるいは今現在どういうことを求めているのか把握する場面はあるのでしょうか。

【事務局】

本検討委員会と合わせて「地域協議会」を別途立ち上げることを考えています。そのため、この地域協議会での意見もお聞きし、まちづくり計画の検討に反映していきたいと考えています。

【梶委員】

地域協議会が出た意見や要望についても、本検討委員会に情報提供して欲しいと思います。

【片山委員長】

今の件に加えてお聞きしたいのですが、地域協議会はどのようなメンバー構成となっていますか。

【事務局】

地域協議会のメンバーは現在選定中ですが、南区の人口構成も配慮して選定したいと考えています。

【三上委員】

私は南区にずっと住んでおり、南区の移り変わりをタクシーの視点から見てきました。かつては子どもが多かったが、最近は高齢の方が多くなっています。特に柏丘は、かつては高級住宅街でしたが、そういった人たちの子どもが戻ってこなくて高齢化しています。

一方、真駒内地域については、南区の玄関口だと考えています。インバウンドや旅行者が多くなっていますし、介護施設や障がい者施設もあり、介護タクシーもやっています。

現在、2020年度の東京オリンピックを目前にして、タクシーという乗り物自体も変わってきており、車椅子に乗ったままタクシーに乗車できるという JPN TAXI（ジャパンタクシー）が走り出しています。ところが、このタクシーを停める場所がない状況で、そういった意味で真駒内駅は、お年寄りや障がい者にとって使い勝手が悪いと思います。

先ほど南区の人口について委員から意見がありましたが、使い勝手が良いまちであれば、自然と人口も増えるのではないかと思います。また、芸術の森など文教施設も多く、そういった施設に行く人は大きな荷物を持っています。タクシーの車両もセダン型から JPN TAXI のように大きな荷物を載せられる大型車が多くなると思います。真駒内地域を南区の中心、玄関口として考え、公共施設を集約したものが駅前にあると住みやすくなると思います。

【片山委員長】

JPN TAXI の乗降スペースはどのようなつくりになっていると良いのでしょうか。

【三上委員】

JPN TAXI は、スロープを出して設置し、車椅子を固定してから出発するため、最低7分はかかります。また、ある程度スペースが必要で、車両の幅と乗降のために1~2m程度のスペースが必要です。しかし、7~10分の間、道路にスロープを出すことになるため、現状ではそれができない状況です。真駒内駅では、時計塔がある場所で、斜めに停車して、スロープを出して乗降しています。しかしながら、タクシーを降りたとしても、地下鉄駅に行くためには横断歩道を渡らないとならないため、冬季の利用は厳しくなります。

今までは、駅前に停めてトランクから車いすを出して降ろしていましたが、JPN TAXI では駅前に停めることができない状況となっています。結果的に、お年寄りや障がい者にとって優しくない真駒内駅になっているため、今後駅前の再整備をするのであればそういった乗降スペースを確保してほしいと思います。

【片山委員長】

真駒内駅は交通結節点となっていますが、事故等の現状で、知っておかなければならない危険な状況はありますか。

【事務局】

事故等の情報は持ち合わせていません。冬季になると平岸通の横断歩道が滑りやすくなり、改善してもらえないか、といった意見を頂いておりますが、具体的な事故につながったということは把握していません。

【片山委員長】

交通関係の話になったので、八島委員、荒井委員から、気になる点や思いなどをお願いします。

【八島委員】

じょうてつバスは、真駒内駅に多くのバスが発着しており、1日あたり7,000人以上の利用者が乗降しており、往復14,000人以上のご利用があります。そういった中で、交通結節点として、多くの利用者があるにもかかわらず、今の真駒内駅の現状としては、バスを降りてから地下鉄までのアクセスは、良いとは決して言えない状況です。例えば、定山溪・藤野方面から来たバスを降りてから、地下鉄駅までかなり歩きますし、信号を渡って地下鉄に乗り継ぐ状況です。先ほども話題に挙がりましたが、特に冬になると、ツルツル路面の道路を渡らないとならないため、転んだり危ない状況も見受けられます。

また、真駒内駅は道路沿いのバスターミナルであり、寒い中でバスを待つ状況となっているので、改善してほしいと思います。

【荒井委員】

現在のバスターミナルは、地下鉄からバスへの乗継ぎが、方面別に分かれていて機能的に配置されていると思います。逆に言うと、他に立ち寄らず、真っすぐバス乗り場に向かっています。

当社においても、真駒内駅はあくまでバスと地下鉄の乗継拠点として認識しています。麻生や新さっぽろ駅は、そこに行くための目的があるものの、真駒内は、地下鉄に乗り換えるお客様が多いと思います。一方で言えば、それだけ多くのお客さんが通過している状況なので、真駒内駅にも賑わいや滞留できる施設があれば、お客さんは留まってくれるのではないかと思います。

また、最近はインバウンドの方もたくさん乗車しています。現状は地下鉄を降りてから真っすぐバスに向かっているので、施設整備においては、ひと工夫があると駅前の賑わいはできると思いますし、そういうチャンスを秘めているのではないかと、今それに向けて頑張る時ではないかと考えています。

【片山委員長】

せっかく駅で待っているのだから、もう少し札幌のことや観光情報を知れるようにすると面白いのかなと思いました。観光面ではどうですか。

【山田委員】

定山溪から出発するバスは、札幌駅行と真駒内駅行のバスがありますが、圧倒的に札幌駅に行く人が多いです。それは、運行ダイヤの関係もありますが、真駒内は通過点になっているからです。わざわざ真駒内に行って地下鉄に乗り換えるよりも、札幌駅に直接行った方が便利であるため、観光協会としても、どうしても札幌駅行をご案内していることが多いと思います。そのため、今後の真駒内駅前の活性化を考える際は、駅前に滞留・交流できる場所をつくと良いと思います。それができることによって、定山溪から向かうお客さまにもご案内できますし、真駒内に寄ってから帰ることも可能だと思うので、そういった施設をぜひ作った方が良いと思います。

【片山委員長】

高齢化の話が出ましたが、住宅の専門の観点から、奈良委員と木村委員の方から、高齢化の問題についてどのように考えていますか。

【奈良委員】

真駒内は大規模な住宅団地として造成されてきましたが、市や道の施設の老朽化が進んでいます。真駒内は住宅地として成熟していますし、“住む”ということの魅力を高めると良いと思います。

例えば、資料の中で、真駒内は他の区への移動が多いことが示されており、高齢化して住み続けられなくなって出て行っているのか、若い世代がどんどん出ていっているのかわからないですが、転出する人をより少なくし、新たに転入する人を増やしていくことが重要だと思います。

一方で、共同住宅から一戸建てが増えている傾向や、地価は横ばいになっているという傾向があるので、中古住宅の流通など若い世代が入ってこれる仕組みづくりや、緑も豊かで地域資源もたくさんある地域なので、そういったことを活かして地域の魅力を高めていく可能性があるのではないかと感じました。

【木村委員】

真駒内駅前にある五輪団地は 830 戸あり、現在築 45 年を過ぎようとしている状況です。建設当初は若い世代の方が多く入居されていましたが、現在は高齢の方が中心となった団地に変化してきている状況です。当機構としても、どのように若い世代を取り込んでいくかということは、大きな課題の一つとなっています。

居住者の方と話をしていると、桜山の紅葉など、真駒内の環境を気に入っている方が多いと感じました。そういった環境を大事にしながら、新たに住みたいと思わせる仕組みを、まちづくりにどうやって反映できるかこの検討会で考えていければと思います。

【片山委員】

去年から藤野地域で 20 代、30 代の子連れの若いお母さん方と市民活動グループを作り、地域食堂を始めたり、イベントをやったり、じょうてつバスさんの福祉バスを盛り上げようとマップ作成などをし

ています。その活動の一環でアンケート調査をやると、地域から3割くらいの回答があり、それだけお母さん方の活動が注目されていると実感しました。

空き家もあるけども、高齢者がいて人生経験を聞き、見守りながら子育てができる環境があると、この場所は、とても良い場所になると思います。道営住宅やUR団地において、自治会活動で面白い活動があれば教えてください。

【木村委員】

例えば全国のUR賃貸住宅では、自治会の方々が中心となったコミュニティカフェの運営や、高齢の方への声の掛け合いなど、いろいろな活動が行われています。

こういった日頃の活動が基盤となり、特に地震などの非常時において、お互いが助け合うというコミュニティの力として発揮されるのだと思います。

【奈良委員】

札幌市内の事例ではないが、道営住宅では子育て支援住宅を展開しており、集会所でNPO活動や市の子育て支援のサービスなどが行われています。また、道営住宅に住んでいる方だけではなくて、地域の方が情報交換したり、子どもが遊んだりしている活動でも使われています。駐車場や集会施設、空き家なども増えてきているので、そういったものを活用して様々な取組ができると思います。

【片山委員長】

次回の会議の情報として、社会福祉協議会や地域包括支援に関する取組みについて、真駒内ではどのような活動がされているのか、どのような福祉のまちづくりのイメージがあるのか把握しておいても良いと感じました。

もし、真駒内駅前前の再整備に関する想いや、資料の最後に記載している5つの視点について、追加したり文言を明確化した方が良いといった意見などがあれば頂きたいと思います。

【岡本委員】

平成25年策定の「真駒内駅前まちづくり指針」では、基本目標や取組みの考え方、土地利用再編のイメージなどが整理されています。指針策定から5年ほど経過した中で、地域の状況などが変わっていますが、大きくはこの指針に書いてあることを踏襲しながら、現状や将来像に合わせて調整をして整理したものが、まちづくりの重要な視点だと思います。

そのため、「まちづくり指針」を策定してから変化した地域の状況を踏まえて、「まちづくり指針」から最後の5つの視点につながる関係性をA3の1枚程度で整理してほしいと思います。

「まちづくり指針」では土地利用再編イメージまで出ているので、この土地利用再編イメージをベースにして駅前地区がどうあるべきか、「公共・民活エリア」には具体的にどういった機能が入ってほしいか、どのようなことを大切にしたい施設づくりとすべきか、といった議論をする場合は、「まちづくり指針」と今回の検討委員会の関係性が明確になるためにも、「まちづくり指針」をベースにしなが

重要な視点につながってくる全体像がわかる資料を用意してほしいと思います。

最後の 5 つの視点だけを見ると、「まちづくり指針」と何が違うのかがわかりづらくなるので、これまでの議論を踏まえた整理をして頂いた上で、本検討委員会の位置づけを委員の皆さんと共有化したいと思います。

【事務局】

次回までに「まちづくり指針」との関係性をわかりやすく整理したいと思います。

【片山委員長】

「まちづくり指針」の基本目標にある「安全・安心」の項目が、5 つの視点に見当たらないのですが。

【事務局】

確かに視点の中に「安全・安心」という文言は入っておらず、5 つの重要な視点では、スマートコミュニティなども含めて「持続可能なまちづくりの再構築」という表現にしています。よりわかりやすくキーワードを整理したいと思います。

【片山委員長】

これまでの議論を踏まえた雑感ですが、真駒内地域は高齢化が進んでいて、人口も流出している“残念な地域”と思われがちですが、年月を経ているからこそ、災害の時の地盤となるコミュニティや自治会のパワーがしっかりしている、豊かなまちだと思うので、「多世代の交流」など、“どういう人が”ということが浮かび上がるような言葉が良いと思います。そうすると、「持続可能な」ということ具体的なイメージが描けると思いました。

【梶委員】

これからのまちを支える若者がなぜここに定着しないのか、若者の意見をしっかり把握するためにも、地域協議会におけるメンバーの選考においては配慮してほしいと思います。

【事務局】

そういったことを含めて地域協議会のメンバーを選定したいと思います。

【片山委員長】

非常に活発な意見交換ができたと思いますが、他にご意見はありますか。

(※特に意見等なし)

【片山委員長】

それでは以上で、本日の議題は全て終了します。

以 上